

2. 事業の概要

(1) 教育理念

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会の教育:「まことの自由への教育」



コングレガシオン・ド・ノートルダムの学校は、1658年に始まる教育の歴史をもち、子どもたちが生きる意味を見出し、強い意志・勇気・愛をもって、社会の変革に寄与できる、誠実で品位ある人になるように育て、世に送り出そうとしている。すべての教育活動は、子どもたちが自分に与えられた使命に気づき、自己実現をはかり、未来を拓いて行く力を育てることを目指している。

- ・ イエス・キリストの愛に学ぶ
- ・ 卓越した学問の追究を目ざす
- ・ 神・他者・自分・自然と対話する心を育む
- ・ 義と平和の実現のために働く人を育てる

(2) 教育重点目標

〔福島部門〕

1. 教育力の充実・向上
2. 募集・広報活動の活性化:入学者目標(短大160、高校150、中学校35、小学校30、幼稚園30)

〔調布部門〕

1. ミッションステートメントの具現化
2. 教職員研修の活発な展開

(3) 令和5年度重点活動計画・活動報告

別紙 各部門別活動計画による。

(4) 施設・設備整備計画・実施報告

〔桜の聖母短期大学〕

1. 本館連絡通路出入口改修工事(自動ドア3か所) 3. マルグリット館北側外壁上部階タイル補修工事
- 同上 (スロープ部) 4. ミアム館外周塀改修工事
2. 本館エレベーター制御リニューアル工事 5. 校舎内外・設備等各所修繕工事

〔桜の聖母学院中学校・高等学校〕

1. 高校3階中央トイレ改修工事 4. 中学校昇降口床タイル修繕工事
2. 高校コンピュータ教室エアコン工事 5. 校舎内外・設備等各所修繕工事
3. 高校第2ホール他換気扇交換工事

〔桜の聖母学院小学校・幼稚園〕

1. 小学校トイレ入口扉改修工事 4. 校(園)庭高木選定工事
2. 幼稚園園舎用防犯カメラ設置工事 5. 校(園)舎内外・設備等各所修繕工事
3. 幼稚園囲障避難口設置工事

〔マルガリタ幼稚園〕

1. 園庭補修・整備工事 4. プランコ前安全柵設置工事
2. 教職員室入口ドア改修工事 5. 園舎内外・設備等各所修繕工事
3. 園庭植木剪定工事

令和5年度(2023年度) 短期大学 事業活動報告

桜の聖母短期大学 学長 坂本真一

短大の重点目標として「教育内容の充実」「入学定員の充足」「地域貢献の推進」を掲げた。

「教育内容の充実」については、教学マネジメントに則り引き続き改善した。

専門教育課程に教養科目を位置付けて見直した三つの方針に基づいた教育課程を完成年度として運用した。

昨年度整備した情報基盤を利活用し効率的に事務業務を行い、効果的な学習ツールとして用いた。

「入学定員の充足」は、各学科・専攻ともに入学定員の見直しを行い100%以上の充足率を目指したが、厳しい結果となった。

「地域貢献の推進」については、地域連携センターを軸に、開放講座や出前講座等地域貢献を効果的に展開した。

1. 教育内容の充実

① 魅力ある学科・専攻・コースづくり

キャリア教養学科 : 満足度を高める授業や教育活動を継続的に実施するために、相互授業参観を強化した。

3コースの特徴を明確化するために各コースの担当者を決め、特長ある取組を模索、試行した。

また学生自身にもキャリアオーナーシップとコースの意識付けをさせるために、年2回、意識調査を行った。

生活科学科 : 教育内容を点検し、改善・充実を図る。

食物栄養専攻 学習成果の外部試験評価としては、栄養士実力認定試験における短期大学の部での最優秀成績による優秀賞2名、優良賞2名の結果を得た。

特別研究において商品開発など地域貢献や企業連携を行い、各専門フィールドの学習成果を明確化できた。

地域貢献の成果について、情報発信を行った結果、前年度より2名の入学者増の結果を得た。

こども保育コース 新たに「こども音楽療育士」の資格取得を可能にする等、次年度以降のカリキュラムを見直した。親と子のひろばや特別研究活動等、

学生主体の実践教育の場を増やし、教育の充実を図った。

高校2校での出前授業、親と子のひろばにおける実践活動等、高大連携の取り組みを実施した。広報媒体や在学生の母校訪問を通じて、

積極的な情報発信を行った。

② 魅力ある教育課程の編成・実施 学務部

・令和4年度改訂新教育課程によるカリキュラムの完成年度を無事終了した。

・令和4年度改訂新教育課程の完成年度を迎え、学科専攻において学習成果を教授ポートフォリオ等の根拠資料を基に、点検・評価し、改善点の整理を行った。

・学科・専攻によるFD活動を推進し、学科専攻毎の授業公開、授業研究を全て行うことができた。授業改善アンケートも学科専攻で共有し、授業改善についての検討をすることができた。

③ 学生が主体的に判断し行動するための支援 学生支援部

・学生支援部委員が各委員会の顧問となり、メンバーが主体的に活動し責任を持って活動できる様に支援をし、結果、全ての行事(運動会、地域の方を招いたあかしや祭、式場でのフェアウェルパーティー等)においてコロナ禍前の内容に戻して実施することができた。

・年間を通して全10回の学生委員会を実施し、各学科、学年の生活状況等を共有や行事やイベント(仲良くなろうの会等)を企画、実施をし、学生会、B&L委員会の連携の強化を図った。

・学生支援部顧問の支援により、せいたんナビ委員会が主体となりオープンキャンパスを企画し実施することができ、また広報(事務長、アドミッションセンター長等)の支援により、パンフレットやチラシ等の媒体を通して情報発信を行うことができた。

・多様な学生への支援体制を確かなものとするために前期2回、後期2回、計4回の健康サポート委員会を開催し、ケース会議を行い、カウンセリングや個別面談等を実施し支援を行った。

④ 多様な学生の進路実現 キャリア支援センター

- ・学科専攻コースとの情報共有体制をより強固にすべく、センターから各教員へ働きかけを強化した。
- ・2か年計画でスタートした就職支援講座は一般企業・公務員・編入等一層の充実に向けた取り組みを行い、一定の成果が出た。
- ・2か年計画でスタートした公務員対策講座の更なる充実を図るため、業者の変更などを行い、試験対策ガイダンスの新設等、プログラムを強化した。
(R5年度は福島市行政1名、保育士 1名、二本松市土木1名、保育士1名、計4名が合格、他、各自治体で最終選考まで進んだ学生もいた)
- ・全員の個別面談は各学科専攻コースの就活本格化時期に合わせて実施。随時面談も体制を強化し、最終の相談件数は428件(前年比+163件)となった。

2. 入学定員の充足 アドミッションセンター

① 18歳人口の減少を踏まえ入学定員見直しを実施し、入学定員充足率100%を目指したが、最終的に69%となった。

- ・入学定員は、2024年度入試からCE60名、D30名、CH40名、と改めた。
- ・すべての入学者選抜における出願数獲得のため、各学科専攻コースや事務各部署との連携を強化した。
- ・学校推薦型選抜(指定校・公募)60名(CE22,D17,CH21)前年度比20名減、総合型選抜計6回で12名(前年度比1名増)
「編入支援」を主なアピールポイントとして、「次年度は新試験制度なので浪人できない」層の獲得を目指すため、新たな広報ツールの作成など戦略を強化した。
- ・受験生及び高校教員へ独自奨学金選考の周知を強化したが、32名(前年度37名)の出願となった。
- ・オープンキャンパスへの3年生新規参加者250名を目指す(昨年183名、一昨年214名)としていたが、3月~12月で148名にとどまる。
9月を削減し、6月も日曜午後に設定したことが原因と考えている。
- ・内外含めての情報発信でWEB記事年間300アップを目指す(昨年194件、一昨年277件)としていたが、最終的に234件となった。
さらなる記事増加に向け、投稿マニュアルの新規作成、投稿システムの改善等を行った。
- ・ステークホルダーへの認知度アップのため媒体掲載150件を目標(昨年123件、一昨年117件)としていたが、復興支援予算削減などで難しい状況。
各種WebツールやSNS等広告費のない手段での認知を強化した。
- ・桜の聖母学院高校及び重点校との関係強化及び年間250校の高校訪問を行うとしていたが最終的に233件となった。

3. 地域貢献の推進 地域連携センター

① 「次創支援」をキーワードに、地域連携センターと本科との連携を密にし、履修証明プログラムSOC

(桜おとなカレッジ)申込者が延べ25名に達し、リカレント教育支援の強化ができた。

② ふくしま市産学官地域連携プラットフォームの取組を通し、存在感のある地域貢献を図った。

また、ふくしま田園中枢都市圏との具体的な連携の可能性を検討し、協働できる部分を整理し、今後の状況を注視することとした。

③ 各学科・専攻・コースで、地域に貢献する教育活動を実施した。

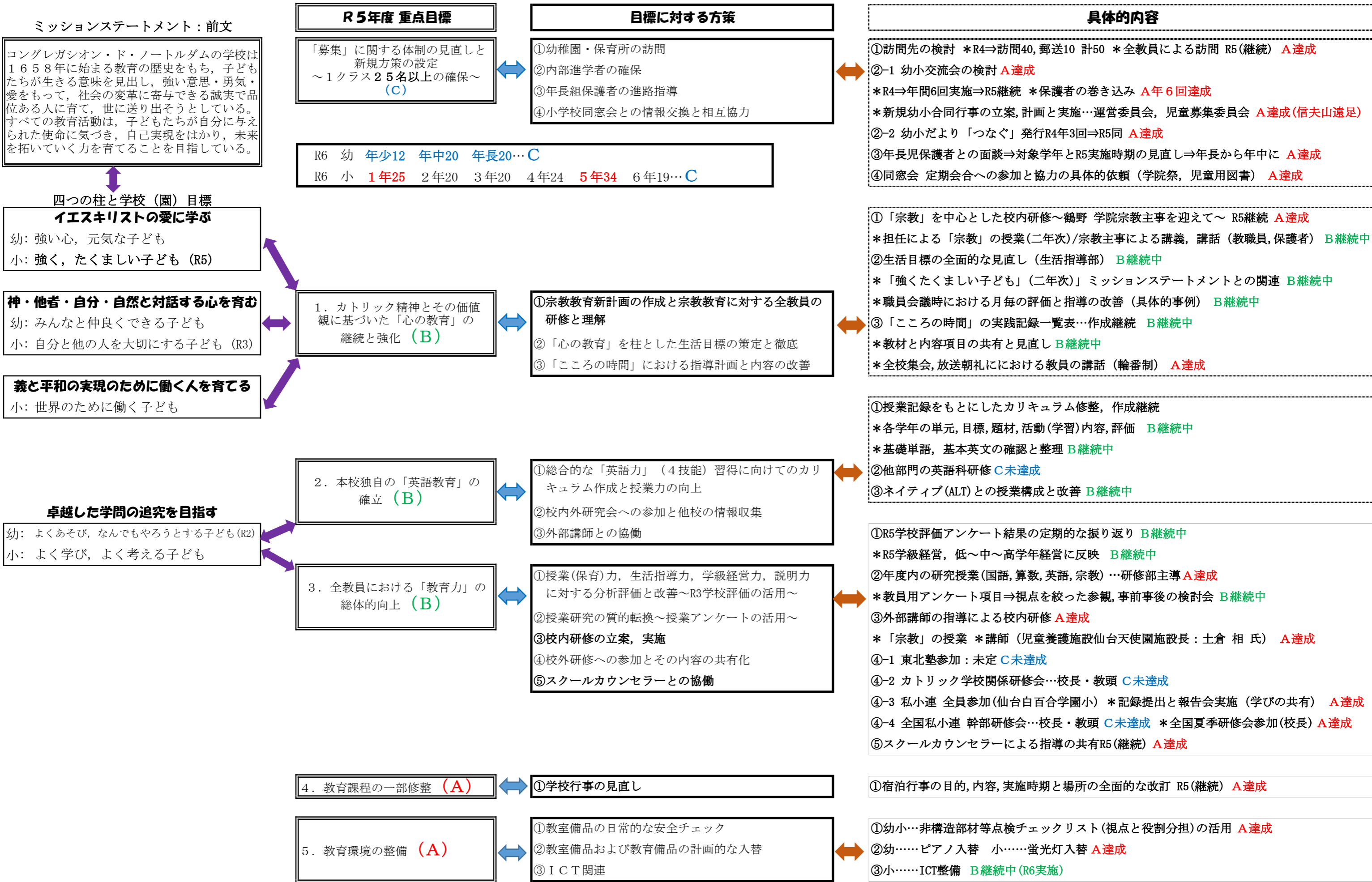
桜の聖母学院 中学校・高等学校 令和5年度重点事業実施報告 および 令和6年度重点事業実施計画

	重点取り組み事項	評価	評価補足	令和6年度重点取り組み事項
1. 生徒の全ての可能性を十分伸ばすことをめざします。	One Challenge —Discover Yourself—事業	A	・第81回全日本学生児童発明くふう展 内閣総理大臣賞 ・2023年 世界青少年発明工夫展 金賞 その他 作文、絵画、書道等の各分野で多くの入賞をはたした。 自主性を尊重する意味で強制はしなかったため、実際自ら応募したのは全体の3割程度であった。	今年度も事業は継続する。 入賞を目指すのではなく、本来の目的である、自己を見つめ、自分自身の興味関心がどこにあるのかを知る機会としてより広めて行きたいと考えている。 しかしながら、校長講話等でこの事業の話を生徒にしているが、自主的活動ゆえに参加生徒数は伸びない。年度最後に報告書を提出する形も現在考えている。
2. 生徒自身が自分を包容させる力となるように、その準備を行います。	高大連携事業の推進	B	・高校1年生 福島大学見学会の実施 ・中学全学年 福島工業高等専門学校 出前授業 (ドローン制御 鋳物によるブローチ制作) ・中学2年生 桜の聖母短期大学 梶谷 宇 教授 (PCRの実験) ・上智大学との高大連携協定締結(10月1日) (高校生タイ・スタディーツアーに高校1年生が1名参加した) 高校2、3年生の連携事業が新型コロナの影響がまだあり なかなか実施出来なかった。	新型コロナも5類に移行したことで、各大学との連携も以前の状態に戻りつつあるので、積極的に連携を深めようとする。 また、体系的な内容の授業を取り入れることにより、生徒の進路決定の選択肢を増やすように心がける。 上智大学との連携協定の内容は、今後の話し合いにより決まるがタイ・スタディーツアーは好評であったので、今年も参加者を募りたい。
	中学生の学力向上	B	数学 希望者に対して応用問題を中心とした課外授業を実施した。 中学1年生 2人 3回 中学2年生 2人 6回 成績下位層(希望) 5人 10回 英語 成績下位層の生徒から希望があり、課外授業を実施した。 中学2年 8人 15回 中学3年 4人 5回	当初は、成績上位層を伸ばすのが目的であったが、成績下位層から希望者が出たことは好ましいことである。 今年度も是非継続したい。 また、今後グループ制を廃止するにあたり、TT、習熟度別授業を積極的に取り入れ丁寧な授業展開に努め、中学校の評判が少しでも良くなるようにしなければならない。
	教職員の授業力向上研修 (ICTを活用した授業)	A	・ICTを活用した授業を行うための環境整備 一人一台のChromeBookを導入した。 各教室にプロジェクター型の電子黒板を整備した。 Google Workspace for Education Plusの活用研修を年4回行った。 講師 本校ICTアドバイザー 大妻女子大学大妻中学高等学校 教諭 加藤悦雄	昨年度はICT教育環境(ハード面)を導入するだけで精一杯であったが、今年度は活用(ソフト面)の研修に力点を移し、より良い授業実施をめざす。 加藤先生の講習会は、1回で2日間、年3回実施する。生徒に対する授業も行う。
3. 生徒が責任ある社会人となるよう指導します。	地域の人材活用	A	・中学1年生 修道院訪問 学院のルーツを知る。 福島の企業を訪問しインタビューを通して地域を知る。 ・中学2年生 職場体験学習(インターンシップ) ・中学全学年 防犯教室福島警察署生活安全課「薬情報モラル不審者対応」 KFBアナウンサー 岩淵 葵 氏 出前授業 ・高校2年生 福島地裁講義 裁判員裁判制度の理解 模擬裁判の体験	今年度も、生徒の社会人としての自覚育成のために、様々な分野のスペシャリストの話を直接聞く機会を設けたい。 中学生のインターンシップも継続して実施する。
	中学生対象の、6年後を見据えた進路指導の充実 (学びみらいPASSジュニア)	B	「LEADS-J」:日々の学習・生活状況や、進路への意識・行動、学問分野への興味・関心等を測るアンケート調査で、夏休みの三者面談等に活用した。	今年度も「学びみらいPASSジュニア」を実施する。 「LEADS-J」(学習・生活状況)のみならず、「PROG-J」(リテラシー・コンピテンシー)の活用にも努める。
	社会活動への参加	C	インターアクト部を中心に徐々にボランティア活動が始まった。	ボランティア活動参加を推奨する。
4. 社会人として、社会の変容と地球環境の保護に積極的に取り組むように指導します。	キャリア教育の充実	B	・高校3年生 キャリア講演会 Google for Education営業統括本部 部長 佐々木 絵里 氏 ・高校2年生 教育校外学習 Google本社 日本郵政本社 見学	実社会で活躍する人の実話が生徒の心には響く、今後も様々な分野における話を聞く機会を設けたい。 また、衝撃の大きい「Google」における働き方は今年も経験させたい。
	SDGsの観点を取り入れた授業の構築	C	宗教の授業において、地球環境問題等を積極的に取り入れ実施した。	SDGsを取り入れた授業展開の研修を行う。

令和5年度 教育活動重点事業 <最終報告>

桜の聖母学院『幼小部門』

部門内評価凡例 **A達成** **B継続** **C未達成**



2023年（令和5年度）マルガリタ幼稚園の事業計画（活動報告）

マルガリタ幼稚園 園長 近江谷 綾音

I. 教育理念

- 1) コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会の教育「まことの自由への教育」
- 2) 学校法人コングレガシオン・ド・ノートルダムの「ミッション ステートメント」

II. 教育目標

- 1) 子どものために作られた環境の中で、安心して生活できる環境を提供し、援助する。
- 2) 子どもが一人のできる喜びを実感できる環境を提供し、支援する。
- 3) 子どもが「自分で考え、判断し、行動できる」環境を提供し、一人ひとりの自己実現を支援する。
- 4) 集団生活の中で、自分が「人の役に立つ」喜びを感じる環境を提供する。

III. 重点目標

1) 園児募集の強化 —マルガリタ幼稚園の特色の強化・発信—

- ① 教職員の危機意識を高め、全教職員で募集企画・運営にあたる。
⇒危機意識は芽生えているものの、ひとりひとりが問題と向き合っておらず、人任せとなっている。
- ② 「プレ保育」「マルガリタひろば」の継続と強化を図る。
⇒「マルガリタひろば」は低年齢化してきている現状。そこにプログラムを合わせる必要がある。
「4年保育」が定着化してくるということは、2歳児親子教室の「ひよこ組」の存在価値が薄れている。 **令和6年度ひよこ組2名で実施中。**
- ③ 「預かり保育」の保育時間を延長する。17時30分→18時00分
⇒4月から延長実施。保護者から好評。
- ④ 2022年度見直ししたHPのコンテンツの有効活用を図る。
⇒園内見学、未就園児対象の「ひろば」などの発信をこまめにするようにした。
後半、人員不足のためきめ細やかな対応が出来ずにいた。
園内見学・ひろば実施の結果、「広い園庭」「広いホール」に満足の声。また、掃除の行き届いた園舎をほめられることが多かった。「ドライブスルー」が好評。

- ⑤ 園児募集を外部に幅広く発信するために調布市の子育て応援サイト「コサイト」を採用。
⇒調布私立幼稚園入園フェアへの参加などで認知度が上がった。また、未就園児向けのイベント開催のお知らせなどの発信もお願いした。
外部の方がかかわることで、新たな一面、強みの発見にも至った。

園児募集強化の結果としては、いちご組 12名→21名、新年少組（前いちご組を除く）17名→18名

- ⑥ 地域への園庭開放・移動動物園実施を図る。
⇒近隣の未就園児の保護者にも好評。**幼稚園を知ってもらうきっかけのひとつとなった。**

2) 「いちご組」を定着させる

- ① 内外へのPR
⇒徐々に「4年保育」が浸透してきている実感がある。すでに「3年保育」からのPRでは遅いことを痛感。
- ② 教育内容の充実—正課：体操を加える。
⇒月1回実施。男性の先生より、女性の先生の方が良いという声が上がった。
- ③ 保護者からの要望の検討—降園時刻など。
⇒徐々に長時間保育にした。目途や目安がわかることで保護者も安心するので早めの発信を心がける。預かり保育実施の希望もある。参加できる行事が増えたことも良かった。（こども夏まつり、手づくりおもちゃバザー、誕生会など）
- ④ 1年間の月ごとの指導内容作成—今年度末に完成予定
⇒持ち越し。来年度に完成予定。

3) 人事について 2024年（令和6年度）人事の具体案作成と採用基準の準備

- ① 退職予定者・育休者—常勤者
⇒育休者の代行は近江谷が入った。その他の業務に様々な先生方の援助あり。
常勤の退職者の人数の人事は3月末まで難航。非常勤に関しては未だに難航中。養成校20校に求人情報、ハローワーク、日本カトリック学校連合会、派遣・紹介会社9社へアプローチをしている。

4) 教職員の研修回数の拡大に向け、立案と実施を図る。

- ① 新任教育—副園長
⇒10月から日案などの指導は続いたが、時間を割くことが困難であった。
- ② カトリック幼稚園、マルガリタ幼稚園の基本的な教育理念に関する研修—園外講師
⇒特に、非常勤の先生の中には、「カトリック教育」や「創業者」について知らない者もいたので、好評であるのと同時に共有できたことは有意義であった。

③ 教育内容・幼児教育者としての研修―園外講師

⇒夏休み中に共通の研修（指定）と個人研修に参加した。そのあと、分かち合いの時間をもう少しゆっくりとすることで深められたのではと思う。

④ 日常的な発信物、提出物などのこまやかな指導―園長・副園長

5) 教育内容の充実

① 宗教と英語の新カリキュラムの作成（各学年ごと）―今年度、宗教と英語の担当者を新たに採用

・10月からの新担当者による英語指導は好評で、正課・課外とも園児、保護者にも好評。

・宗教も落ち着く時間となった。

② コロナ禍以前の園行事の見直しと実施

⇒行事をコロナ禍以前に戻したところ、運動会をはじめとして活気が戻り、好評であった。

クリスマス遊戯会は、学年ごと入れ替え制であったので、自分の子をしっかり見ることが出来ることが好評であった。園だよりなどで事前に伝えてはいたものの、全学年を通して観覧することが可能であったが、ほんの一部の保護者のみの観覧となってしまい残念ではあった。クリスマス遊戯会に関しては、全学年を通して観覧することのメリットとデメリットがそれぞれあるので、保護者の意見などを聞いて検討していく。

また、園児数の減少に伴う「保護者の会」の負担軽減のため「おもちつき」を来年度より廃止することに決定。

6) 危機管理マニュアルの見直しと作成、訓練の回数拡大

① 備蓄庫の備蓄品の新規購入

⇒点検は終了。備蓄品（特に食品）の購入まで着手できず、来年度に持ち越し。

② 危機管理マニュアルのHP掲載

⇒次年度実施予定。

③ 感染症対応マニュアルの作成と周知

⇒次年度実施予定。

7) 教職員の業務負担軽減策に着手する。

① 園務システム活用 欠席連絡、預かり保育申し込み・料金徴収等を簡素化する。

⇒システム導入は次年度に検討。預かり保育の料金収集に関しては、日々集金していたものを月毎に集金または、振り込みをするように変更した。事務窓口業務の簡易化となった。

② PC台数増による教員のPC活用範囲を拡大する。

⇒システム導入の変更に合わせ次年度実施検討

- ③ コーポレートカード導入を検討する。立替払いによる出勤業務の簡素化をする。
⇒次年度実施検討。

8) 今年度発生事項

- ① 三鷹労基署調査実施（7月）是正勧告を受け、常勤者のタイムカード打刻等対応済み。また、出勤、退勤時刻の遵守を徹底している。
- ② 調布消防署査察（10月）改善の私的を受け、今年度中に対応。（非常扉の鍵カバー設置、預かり保育倉庫への火災報知器設置）
- ③ 新規調布市安全対策補助金の活用 AED 増設、ブランコ前方安全柵設置。
- ④ 日本スポーツ振興センター「災害共済給付制度」加入（前年度未加入が判明、加入申し込みが年1回5月）